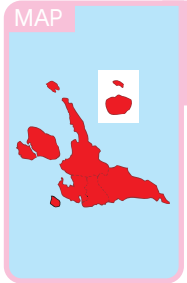
MAP



宮古地区

宮古には、島々に息づく伝統文化、歴史的遺産が数多くあり、豊作・豊漁、無病息災、子孫繁栄を祈願する多彩な伝統行事が行われる。
多良間島の8月踊は、毎年旧暦の8月に繰り広げられる島を挙げての祭りで、国の重要無形文化財にも指定されている。1637年に実施された人頭税制度によって重税を課せられ農民が納税の報告と豊年を祈願することから年中行事として行うようになった。
また、宮古の歴史・文化を後世に長く伝える施設として、平良市総合博物館や上野村農業資料館、多良間ふるさと民俗資料館がある。ここには昔使われた貴重な農漁具類、生活用品や近年まで各農家で使われていた農機具や生活用品が一堂に展示されて農漁業や農漁村社会の変遷をみることができる。是非立ち寄ってみよう。

伝統歴史

【パタムル　】
オーダやモッコー等の生活用具を編む道具として使用。現在は、花器やかご・バッグ等を編む用具として活用されている。

【ウーキン（計量はかり）】
計量する物の重量により使用するおもりの重さも変わってくる。

【マミウツボー　】
農家の広い庭や、取り入れの終わった畑に大豆や小豆等収穫した農産物の殻をとるのに使用。
短めの棒を持ち、長い棒を振り回すことにより、脱殻した。

【マニアギスキ　（鋤）　】
畑を耕すのに使用した。牛馬にひかせた手製の木の鋤である。刃の部分も木であったが、鉄で作られるようになる。ヤマとは機械であるという意味だ。畑を耕す便利な機械というところから名付けられたらしい。

【サバニ　】（くり舟）
漁へ出かける時の乗り物。

【足踏み脱穀機】
宮古で脱穀機が使用され始めたのは昭和三十一年頃。（一九五六年）。しかし、しばらくの間はマミウツボーも併用して行われていた。

【荷馬車　】

畑へ農作業に出かけるときは、家族皆一緒に乗り合いし、帰る時は収穫物を積載してその上に乗り合いして帰った。

【オーダ　】
農作物の運搬に使用されていた。

【野原のマストウリャー】
旧暦8月15日の豊年祭で、上野村野原地区では人々が公民館に集まり、棒ふりや四つ竹踊りをくりひろげることを繰してマストウリャという。
（上野村）

伝統の息吹。

雄大な自然を舞台にいにしえの文化と伝統が息づく島。
五穀豊穣、無病息災、子孫繁栄を祈る多彩な伝統行事は、
島独特の力強さと勢いを感じさせます。
その中で、深い歴史を感じることができるば。

宮古地区

【宮国の大綱引き　】
旧盆の3日間行われる宮国集落の勇壮な綱引き。東が雄綱、西が雌綱と決まっており、豊作豊漁が祈願される。
（上野村）

【来間島のヤーマスプナカ　】
ヤーマスとは子孫や家の繁栄を祈願して行われるもので、下地町来間島ではヤーマスプナカと称し、毎年旧暦9月に初辰から未までの4日間開催される。ヤーは家、マスは増す、プナカは祭祀の意。（下地町）

【多良間の８月踊り】
旧暦の8月に3日間行われる、多良間島の代表的豊年祭。国指定重要無形文化財。1637年に宮古八重山に実施された人頭税制度によって苦しみ味わった人々は納税の報告をし、さらに豊年を祈願することを年中行事とした。明治時代になってから、民俗踊りに加えて、古典踊りや組み踊りが首里から伝えられ、琉球王朝時代の華やかな民俗芸能の時代を感じさせる。
（多良間村）

【ハーリー　】（海神祭）
旧暦の5月4日に行われる海の行事。サバニ（くり舟）に龍などを象徴する色彩をほどこし、豊漁祈願の競漕などを行う。
（漁家地域）

【獅子舞　】
城辺町上区の獅子舞は町指定の文化財。魔を退け邪悪を払い、五穀豊穣をもたらす願いがこめられ毎年旧暦の8月15日に獅子舞の奉納と、農畜産物の共進会が行われる。
（城辺町）

祭り踊り